

# 大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2021年 第31週（8月2日～8月8日）

## 今週のコメント

～新しい生活様式の実践～ 手洗い、マスク着用、身体的距離の確保、密閉・密集・密接の回避が重要

### 定点把握感染症

「RSウイルス感染症 さらに減少」

第31週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は、前週比8.7%減の1,259例であった。

定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、咽頭結膜熱の順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ2.72、2.46、0.34、0.33、0.27である。

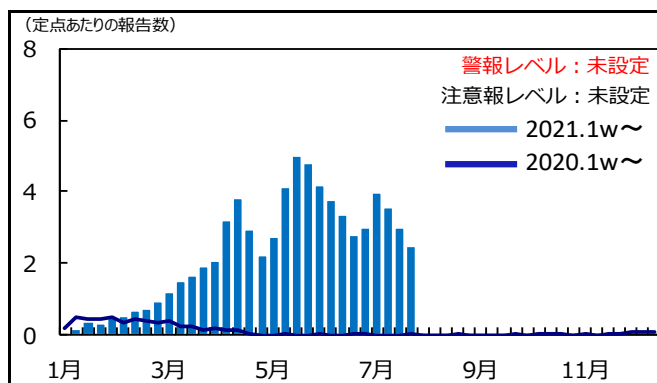
感染性胃腸炎は前週比2%増の534例で、大阪市南部4.33、大阪市北部3.93、北河内3.65、中河内3.15、南河内2.88であった。

RSウイルス感染症は18%減の482例で、南河内5.81、大阪市北部4.14、北河内3.50である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は27%増の66例で、大阪市南部0.67、三島0.59、南河内0.50であった。

咽頭結膜熱は28%減の53例で、泉州0.47、南河内0.44、大阪市北部0.43である。

RSウイルス感染症



感染性胃腸炎

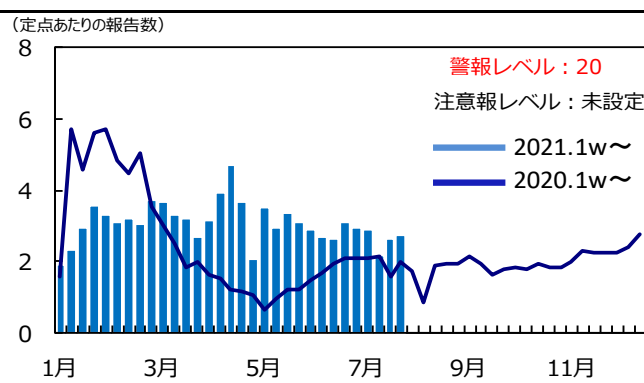


表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2021年 第31週8月2日～8月8日）

第31週の順位	第30週の順位	感染症	2021年 第31週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2020年 第31週の 定点あたり 報告数	2021年第31週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	2	感染性胃腸炎	2.72	2%増	1.98	1歳_22%
2	1	RSウイルス感染症	2.46	18%減	0.02	1歳_33%
3	5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.34	27%増	0.53	2歳_21%
4	4	突発性発しん	0.33	7%減	0.58	1歳_43%
5	3	咽頭結膜熱	0.27	28%減	0.27	1歳_38%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。2021年第10週まででインフルエンザのコメントを終了しました。

## 第31週のコメント

～腸管出血性大腸菌感染症～ 食肉・食材の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などにより、食中毒や感染拡大の予防を徹底することが重要です

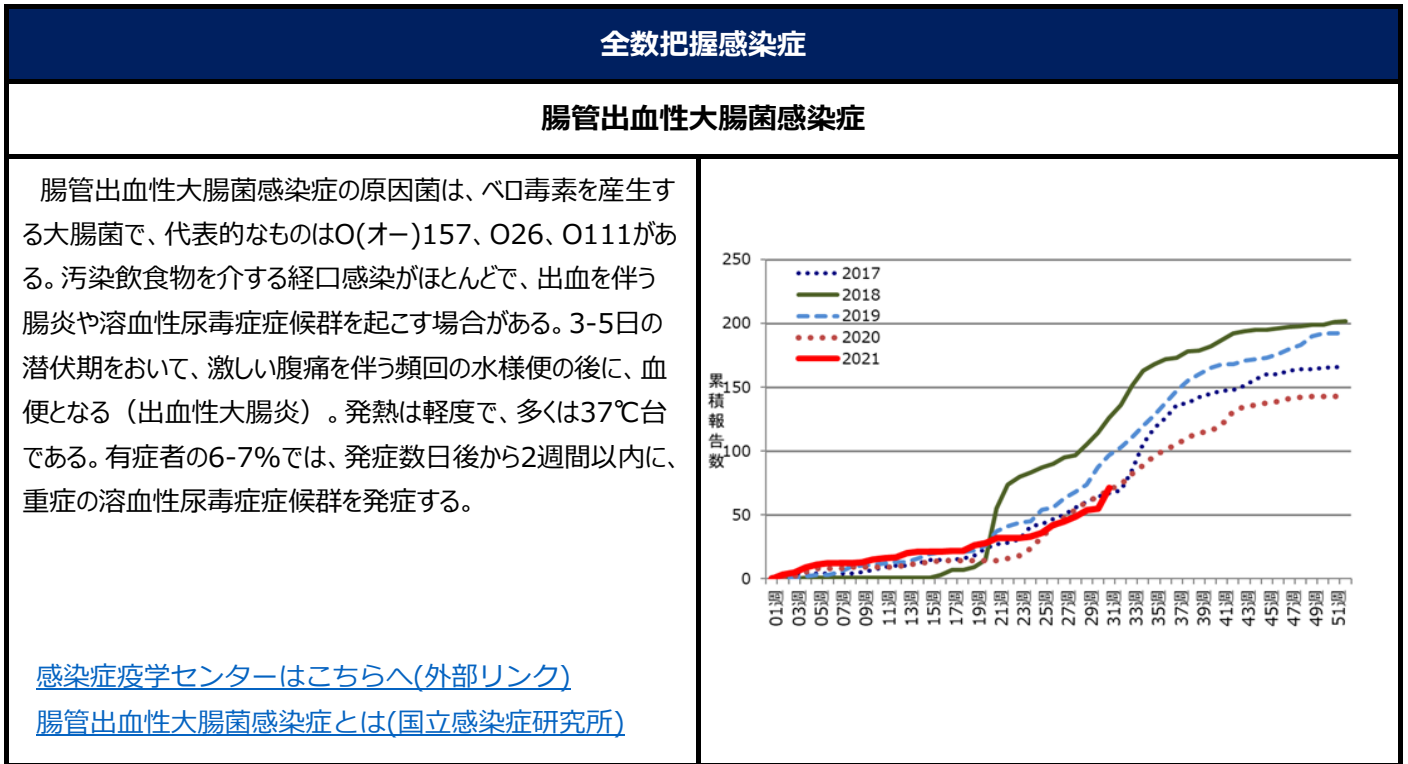


表 2. 大阪府全数報告数（2021年 第31週8月2日～8月8日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります  
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】発生動向調査>全数報告 をご覧ください。）

	疾患名 ( ) 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内市町村別									府内累積報告数
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市		
3類感染症	<b>腸管出血性大腸菌感染症</b>	<b>16</b>	1						13	1	1	71
4類感染症	E型肝炎	1		1								6
	レジオネラ症（肺炎型）	1					1					70
5類感染症	アメーバ赤痢	2									2	26
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3				1					2	103
	後天性免疫不全症候群	1									1	59
	侵襲性肺炎球菌感染症	1									1	59
	梅毒	8			1	1					6	424
	百日咳	1									1	18
新型インフルエンザ等感染症	<b>新型コロナウイルス感染症</b>	<b>7,433</b>	2020年1月以降累計 122,458									
結核 (2021年6月分)	<b>結核 新登録患者数：59名</b>		(内 肺・喀痰塗抹陽性 19名) (府内累積報告数 468名、内 肺・喀痰塗抹陽性 157名)									

(2021年8月10日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

[詳細はリンク先の『11月1日まで』と『11月2日以降』をご覧ください。](#)